

昭和四十三年三月招集

第一回市議會議定例會議錄(第三号)

館山市議會第一回定例会會議錄(第三号)

昭和四年三月招集

一、三月十二日(大曜日)

一、議事日程(第三号)

第一議案第十一号

昭和四十二年年度館山市一般會計補正予算
(第五号)

議案第十一号

昭和四十二年年度館山市国民健康保険特別會計
補正予算(第三号)

議案第十一号

昭和四十二年年度館山市簡易水道事業特別會計
補正予算(第一号)

議案第十四号

昭和四十二年年度館山市之畜場特別會計補正
予算(第一号)

第二

議案第十五号

昭和四十二年年度館山市休養施設特別會計
補正予算(第三号)

議案第十号 昭和四十二年年度館山市館山ユースホステル特別会

計補正予算(第二号)

議案第十号 昭和四十二年年度館山市南部簡易水道事業特

別会計補正予算(第一号)

午前十時七分開議

議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数 三十五名

二、第一回市議会定例会第三日、会議を開会いたします。

本日の議事はお手えに配付の日程表により行ないます。
日程第一 議案第十号について、質疑を行ないます。
財政課長訂正の申し出がございまいたので、暫時発言を許します。

財政課長（長谷川広治君）大へん申しわけないことですが、
一大ページが歳入におさまりで誤まりがございまして、御
訂正いただきたいと思います。

三目、教育費の欄でございしますが、補正前、額と
一億四千万という方がございますが、一億四百万が正し
いことになります。御訂正願います。従いまして
計、欄が九千四百万となすようになります。こゝを九千
四百万というふうには御訂正いただきたいと思います。
二五番（田村源治郎君）二四ページ、児童福祉施設費
についてお尋ねしたいと思つます。補正予算に
いて十五万ずつ消耗品、器具購入費など使つない
その理由を述べてもらいたい。

それから三五ページの消防、研修費が十八万、何故
に使つたのか、だから事故が起きたのだ、研修費

はだてにやうであるうか。なぜ当初予算に組んでおいて使わないのか。こゝ使わなかつた原因をお願ひ
— たい。

次は三八ページの教育費が全然見込み額よりも使
つてない。職員9月給は超過さへしている。ほかのも
は三角ばかり付けていかい。こゝうのことになつたか。説
明していただきたい。

それから次は四〇ページの公民館費である。公民館
活動は完全に来てゐるかい。いか。こゝ四万一千
円という副分館長の報酬を見ると使つてない。
こゝう説明をほどこしてもういたい。四点を願ひ
— たい。

・福祉事務所長(池田亮山君)第一点の児童福祉施設費の
需用費並びに備品の更正でございます。

需用費におきましては十五万円、更正になつております。
これは各園の公立の保育園の消耗品でございます。一
年度末に至りましてこの程度余剰が生ずる見
込みでございます。更正した次第でございます。
要するに物品の購入等で役所におきます。共同購
入等によりましたこと等がおもな理由でございます。
十八節の備品購入費でございますが、これもまた遊
具等の購入をそのやうにしてあるわけでございます。
ますが、経費の節減について修繕で間に合
うものは小破修理等を行ないまして、要するに
経費節減によつて出された余剰財源でございます。
まして仕事の上ではいさうかも支障なく運営さ
れてゐるわけでございます。

・防本部長(岩田実君) 旅費 十八万円の減額でござ

いすが、御承知うように昨年々末に大きな事
 故を起し、まゝ一名の重傷者と軽傷者も
 おまゝに、そういうわけであつたから、
 人員であつておりますも、そういうような休
 者がおますと、研修に出すだけの人員、余
 数もございませんで、お説のとおり、研修
 はなるべくおなけいけないうでござい
 ますが、そんな関係であることがござい
 ませんで、また年に一々、果下、消防長
 会主催の視察研修というふうなものもあ
 る、また署長、視察研修というふうなも
 のもあるわけであつた、まあ、いふたう
 な事態、際でもございまして、
 中で、お属いたしませんで、十八万、
 補正いたしたわけであつた、以上、よう
 な理由でございまして、
 教育委員会庶務課長（干場伊右衛門君）
 教育費について申上

げます。教育委員会が更正が非常に多いということ
でございますが、大体二月末の關係を見まわって一つ検討
して予定したものが実施できなかったというものがあいま
し、たので、その關係をもつて更正した次第でございます
て、特に小學校費の扶助費で四十九万円という大きな
ものがございしますが、これは要保護、準要保護關
係の扶助費で当初予定したよりも扶助人員
が減ったということ、それからここに通學用品費
に二十六万一千円とあります。この費目については、当初果
から指導された額にまづ予算化したのでござい
ますが、それが實際文部省から決定されたものは
二いほど必要がないだということでございます。
それから中學校の方にいきまゝて五十七万円という
扶助費が大きな減額でございます。

ニハも小学校と同トく準要保護關係見重メ
人員ヲ減少ト通学用品費ヲ二十五万八千円ヲ
大カ減額トシテことてございます。

それから中学校費で二十六万円ヲ需用費ノ更
正下でございます。ニハは当初公關研究会と予
定した通りでございますが、それが中止されたた
めヲ減額でございます。

社会教育課長(源間利一君)お答え申し上げます。

社会教育費二目の公民館費の中の一節報酬が四万
千円ノ減額でございますが、ニハにつきまゝでは公
民館の副分館長ノ報酬と書記ノ報酬が当初
見込まれておたわけでございます。その中で熊山
市教育兼務職員ノ給与に關する条例を檢討
いたす中で、その条例に従いますと、社会教育総務

費の兼務手当の形で支給するが妥当ではなからう
かということ。副分館長現在小学校長十名、書記
小学校教頭九名という。こととてその相当額四万一千
円を減額いたしまして。その分一日の社会教育総務費
の三節職員手当のうち兼務手当四万二千円に更
正願うているわけでございます。その関係で減額とい
うこととてございます。以上でございます。

・二五番(田村源治郎君)児童福祉に対して使約して厚い
なという説明を聞きましてだが、児童福祉施設の費
用を使約していいか。浮かせるのは正當か。なおす
たらなければ当初予算において組まないのか。この一点
を明らかにして下さい。

次は消防であります。事故を起こせば起す
ほど研修しなければならぬ。手が回らなかつ

たから、研修にいかはかった。だったらなぜ人をふやした
いか。そういう答弁でなくもつと克明に使わない
理由を説明していただきたい。

次は教育費であるが、教育費は職員手当が上つて
いるにもかかわらず、ほかうものは全部予定より
落ちてゐる。まゝてゐる扶助費や関係について、
去年何名あつて何名必要があつたというものは当
初予算でわかつてゐる数字ではなからうかと思ひ
ます。転入が多い館山市ではなからうと思ひます。

それにもかかわらず、当初予算は多く組んであるから
三ノいうふうに出てくるのだ。補正予算は教育
なんかは減らすのが役目か。ほかう事業なんかは節約
なんという一ともある。どこにも三角を付けて当然
であるが、当初とどうして食い違ひを起すのか。誤

明をお願いしたい。

公民館は振りかえだ。なぜ説明うるときにはつきりーない
のか。議会に出す金額は正しく出すべきだ。組みか
えだという説明をしないで議員が追及して答弁す
る方が正しいのか。答弁 いただきたい。

。福登事務所長（池田亮山君）御趣旨ごもつともでございませ
ん。当初につきまーては、備品等も新しいものに買いかえる
或いは消耗等も一応の目安は立てるわけでございませ
ん。一年間四つの園を運営していきます。過程にお
きまして年度が最終になりまして、この年度の残が生
ずるというところでございまして、決りて当初に水増し
の予算が組まれておいて減らしたということではあ
りません。

。消防本部長（若田実君）お説々とおりでございまして

事故が生じますのは何らかのその原因があるわけであ
 ございましてその原因を追及してまいります職員が
 能力を高めるといふのが研修の目的であると思ひ
 ます。先ほど申し上げましたように人員も足らないで
 また予定いたしまして国や県に研修も中止というこ
 ともございましてそういうような研修に参らなかつ
 たらでございまして。一か一ながら他に研修に参る
 かわりに再びあるという大きな事故を起すとはいか
 めという消防長が考えるもとに自主的に研修
 と申しますか、訓練の計画を立てまして特に運
 転者の技量向上を目的としてまして毎日訓練に
 励んだわけであございまして研修のことにつきまして
 はあえてはかたいかなくてもその程度の訓練は
 十分あつたつもりでおります。また先ほ

申上げまいにように消防長会や研修とか、署長や
研修とか果外航いくものは、謹慎と申いますか。取
りやめまいと。その結果十八万の更正となつたわけで
ございます。

以上でございます。

教育委員会庶務課長（千場伊右エ門君）教育費につ
いてみんな減らすのが当然かというふうなことでござ
います。確かにお説のように教育費はなるべく
増額してもよろしいかなければならぬと。私たちは考
えておるわけでございますが、準要保護関係
四十万と五十七万というものは予算を組む
場合にこれはある程度前年度の関係を考え
まゝに見込みで組んでございます。

それが四月一日になりましてはじめて準要保護
生徒の認定を教育委員会で行ないまして、それ

に基いて扶助を行なっているわけでございます。
 そう間う人員の異動とそれから今年は大うな
 ものが通学用品が余ったのでございすが、こ
 れは当初県から指導がありまして、予算化
 しておくようにということでもございなが、実際、
 文部省から示されたものは学用品の中に含まれて
 減額されてきたわけでありまして、通学用品と
 組んでもうが必要なくなつたわけでもございす。

そういうわけで、こゝ更正を行つた次第でございす。
 それから需用費関係が十一万でございすが、これは
 研究会の予定変更に伴うものと、それから研究
 会や印刷関係を予内でやるようになった関係で
 そう経費が節約されたというわけでもございす。

社会教育課長(源間利一君) 御指摘の振りがえにつきま

説明をいたしませんで、たことにつまみしては、深くお詫
びいたします。今後十分気をつけて参りたいと思ひます。
・二五番(田村源治郎君)消防が十八万は訓練に訓練を重ね
わて他の研修会にまなくともという説明をいただきま
すが、二いで正しく職員に説明できたとおっしゃるす
か。だからさうううううな不明瞭な条例の説明を
起こす

訓練を重ねたから、此一かつたからいかなかつた。二
研修費というものはなくともいいように思ひいるで
はないですか。二点について来年度予算には
研修費はないのか。使ふす。うせてある。研修費が
十八万も十分使えないやうでどうするのだ。もし事
故を起せば十八万や二十万ではすまない。

二、養分で許すわけにいかない。十八万は尊い

十八万であるので、もっと良心的に明確に話していただかない。

消防長(星野清之助君) 言われますことはまことにごもつともでございます。先ほど次長が申し上げましたように事情はいろいろございますが、あの事故の根本原因はやはり運転者のミスでございます。

従いまして、あのような事故の絶対起さうないよう十分注意にするように指導いたしますと同時に、いん以来、運転者全員を笠名町の自動車学校に入れまして、いろいろ講習を受けさせるとか、或いは免許証を取らせるとか、そういう措置を取りながら、また精神面におきましては、毎月二回、全員を集めまして、そういう問題などを合わせまして、いろいろ処置してまいります。それから改善できる点はできるだけ

努力にて改善中でございます。なお研修の問題に
つきまゝでは、次長が先ほど触れまいにしように、こちら
都庁も確かにございまいが、それ以上に国や県の方
が開設する予定になつておりまいたうを一方的に中
止いたしまして、出席できなくなつたという事情がほ
んどでございします。そういうふうなことから、十八万
補正をいれたということでございますので、御承願い
たいと思ひます。

・三五番(田村源治郎君) 国や県からこないから使わなかつた。
私たち議員は何でもいいから身になる研修をほ
いしますように十八万盛った。ただよそいづらが研修
ではない。研修にはいろいろある。国や県にいく十八
万でうてゐるのか。一般の研修に対する十八万で
すか。もとよく着ち着いて説明をほどいてくだ

さう。

消防長(星野清之助君) 研修費、十八万というところでございますが、あの中はいわゆる普通う一般旅費も含まれております。研修費につきましても、先ほど来お答え申し上げておりますように、あのは学校入校でございます。従いまして先ほど申し上げましたように、国や県の都合で入校を見合わせるような形になつたものが相当ございまして、こちらが入校する音に思ひがあつても、いうならば、きついという事情もあつたわけでございます。それから、謹慎の音に味も含めまして、視察とか、そういつた名目もものは全部取りやめたという事情もございます。そういうことで十八万円が減額になつたということでございますので、どうぞ御了

保健衛生課長(岡島憲治君)二つは保健所から町村
会を通しまして、館山保健所管内の町村と申
しますと、鋸南、富浦、富山、館山、白浜、千倉、和
田、丸山、三芳、二ヶ町村になるわけでございすか、
そういう機関を通しまして市長のところにも、要
請があつたわけでございす。そゝ町村が集まり
まして協議の結果、今までのそゝ種々の負担に對
する償例と申しますか、特に館山市は自分、行政
区内中に保健所があるわけでございまして、住民が
受ける利益も大きいということもありますけれども
大体半分、三割、二割、ふうなきめ方がなさいたように
ございす。以上でございす。

二番(中村省吾君)そうしますと、鴨川保健所管内
を抜いた安房郡市や市町村ということですか。

そういう市町村会を経てという言葉をおっしゃいます
ーだが、それはいいですねーでも保健所から直接
館山市なら館山市に申し入りがあつた。こういうことで
ございますか。

保健衛生課長(綱島憲治君) 私どもの方で館山保健所の後
援会という組織がございます。

館山保健所、管内の町村もその会員になつておるわけで
ございますが、それを通してでございます。

先ほど市町村会というのは誤まりでございます。後
援会の町村の会議でそれをしたわけでございます。

ニ番(中村省吾君) 今後後援会という言葉が出たん
ですが、この後援会の性格、いつてきてどういう組
織でありますか。

保健衛生課長(綱島憲治君) 後援会の資料を現在手

えに持っております。で、後刻御説明申し上げます。
けれども保健所管内の市町村とそれから飲食店組
合、食品組合ですか。それから美容師の組合である
とか、ミウというものが後援会の会員で保健所の選
挙のためにいろんな部面で果て予算、範囲内で
どうにもおかないものがあるようにございます。
そういうものの保健所を運営するため費用を
後援会組織によつて後援していく。ミウいうことで
ございます。

ニ。番(中村省吾君)わかりました。そうしますと、後援会と
いうものは公的な意味の内容、我々が本会議で論
議すべきでなくとも法律に基いて論議すべき関
係のないものと、私は解釈します。一て見ますと、そう
いったところから申す、一はあつたもので、二はように二百

五十万という大きな金を支出して説明欄には、館山保健所改築地元負担金と称せらうておる。
地元負担金と銘打って出ている。そこで一体あなた方がそういう要請を受けて、この負担金をその後援会なり、そういう組織から言わねたことを信じて、こういう負担行為をなすという法的根拠を示すものがない。

・保健衛生課長（網島憲治君）私、説明に若干不備な点があつたかと思ひますが、いわゆる後援会の中、市町村、市町村長が集まって協議の結果、そういうことをしたのであって、法的根拠と申しますけれども、後援会なるものは、確かに法的根拠に基づいて作られたものではございません。
それから、地元負担について、たとえば道路、地元

負担金。二ういううはもろと同一視されるような
 状況のもうというふうには私もは解してあります。
 二番(中村省吾君)課長えサー言葉と慎重に発言
 してもらいたいんですけれども今う発言よく考えて
 もらいたい。道路と同様だという意味は非常に
 問題がある。多くは言いませんけれども私の方から
 言いますとあなたは地税法のたとえば、二十八条と
 第二項をお読みでございますか、或いはまた地方
 財政促進措置置法う二十四条の精神をよく理解
 していただきたいと思います。

さういふところから二ういう問題について地方自治
 体がどのような態度を取らなければならぬかと
 いうことを考えていただきたいと思います。
 二う一は議場で答弁するにあまりにお粗末な

答弁だ。道路と同じでございますという、そういう
答弁はひかえいたいただきたい。以上、私が申上げました
法的に二、百万円というものを支出する根拠を、
こういう法的根拠に基いて地元負担金を出す
のだという根拠をお示し願いたい。

議長（吉田勇治郎君）暫時休憩いたします。

午前十時五十六分

休憩

午前十一時三十五分

再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開き
ます。

答弁を求めます。

保健衛生課長（潮島憲治君）私、不勉強で大へん申し

わけないと存じます。

お尋ねの件でございますけれども、先ほど後援会と申しましたのは誤まりでございます。館山保健

所運営協議会というものが正式な名称でございます。これは保健所法第六条に基きまして設置されております保健所の運営に関する協議会でござい

ます。

構成メンバーは市町村長、医師会長、薬剤師会

長、歯科医師会長、それから学識経験者として

果議等が構成でござっておりますわけでございます。

いわゆる法律的には負担金ではないと思ひます。

一か一文書の中ではそういうものの集まりの中

の負担金、そういう名目で今回補正をお願いい

い申し上げました。四十二年度分として百万円負

担てくわというところでございます。

三番(中村省吾君) いわねたことはよくわかりました。

そうしますと、館山保健所運営協議会から、この負担金を出してくわというところが要請され、そのことを市町村と話し合いたして、館山市が半額ということになる。そのときに課長出席されたわけですか。

一言そのことを

・保健衛生課長(網島憲治君) そのときには私が出席いたしまして、けれども会議の結果、負担については、私、範囲外であるというところで、後刻市長さんの方に、そのことについては、協議会長である遠藤富浦町長が話すというところで、その会議は終わったわけでございます。

・三番(中村省吾君) 経過はよくわかりました。今たま

だま補正予算の中で、保健所の建設に関
 して二百五十万負担金というところがあ
 りて、これについて私（三）負担金と銘打
 ちて出すことについて問題点がまずあ
 るかどうかと思ひます。いはば、これは
 まだ、正当な考え方があるかどうかと思
 ひます。一かゝ負担金といふことになり
 ますと、いわゆる先ほど言ひましたよ
 うに、法的な負担行為が果たして、妥
 当かどうか、この点を考えざるを得ない
 と思います。もう一つ、私（三）負担金
 といふことも、そのほか、今までの経過
 を考え、また、将来を考えたとしても、
 非常に当館の市にとつても多いと思
 います。

その結果は館山市の財政が非常に困窮している中でこういう負担行為がなされているということでございます。

過日超過負担というものを財政課長の方から我々に資料が配布されました。まだ私もさういには検討しておりませんけれども、相当な超過負担額になっておるうでございます。本来の趣旨からいうならば、私ども地方自治体がこういう超過負担をすべきではないわけでございます。

全額を国庫負担によってまかなうのが本来の趣旨であるにもかかわらず地元負担と称して私どもが超過負担をしておるが、現実でございます。その結果が館山市にとっても住民の福祉に完全にこたえることができないが、実態ではないかと思ひます。

そういふ面においてただ單にこの保健所、併につままりても私はこの負担につままりては先ほど申し上げましたように地方財政法の二十八条の二項の精神からいっても或いは地方財政再建特別措置法より二十四条の精神からいたしましても明らかにこの負担行為というものは考えなければならぬといふ私は思ふのでござります。

なおまた国におきましても地方制度調査会は、このような政府に対して勧告をしております。県立高校とか、巡査派出所、警察所或いは保健所、三つう建物に際して地元に負担をせることは財政秩序の適正化が確保されていふことである。さらに明確な立法措置を講ずべきである。このような勧告まで出ておるわけだ。

あります。

従いまして、私どもがかかる行為にあつたときに、市長以下所管の課長さん方は現状の熊山市におきますところの財政事情がいかなるものであるか。今私ども熊山市民に対してやらなければならぬ現状はどうか。そういう財政事情の中から国が当然持つべきものまでも私どもがたとえ少ない金にても持ちこたなければならぬという矛盾、このことを機会あるごとにそういう割り当てがきたときに、これは本来の趣旨ならば当然、県、国が持つべきではないんですか。何故に熊山市が負担しなければならぬんですかというのを、いう必要があるのではないか。そういう声がより集まってこそ、こういう矛盾がなくなってくるわけです。

私ども熊山市が財政が困窮しているという一
 因をなしているものはかかる超過負担にあると私は思
 う。ですから先ほども課長答弁ではないけれども
 法的根拠を示せと言わなくても答弁一つではない。
 ましても道路と同じでございますという暴言
 をはく。三三三の不勉強だ。少なくとも自分たちが
 する仕事につきまゝではすべて法律に基いて三三三
 という法的根拠に基いてやるんだという信念を持
 つことを勉強していただきたい。そのことが熊山市大
 万市民の付討にたいえることに相なろうかと存じます
 うで、以上申し上げまゝ。三三三は負担行為をさ
 せらぬるときには一般の慣例だから仕方がないと
 いうことでなく、たとえおすにはしても今後三三三
 ことができないように努力して、その上で寄付なら

寄付をするという二となりあえて私はそれに反対するものでは無い。——カー唯々諾々としてそうすると引き受けることだけは、やめていただきたい。そうことをとくと申し上げたいと思います。以上をもって終ります。

一三番（山田教子君）本年度々年度末々補正が二いを見ますと非常に多い。それから非常に減額が多いという二ことではございますが、四十一年以前には、二んない多くなつたわけですが、二々原因でございます。財政課長に教えてもらいたいんですが、予算執行が滞るために二二二現象が起るのか、または年度末になりまして非常に多くなつた不用額が出てくる。不用額が出るのを恐れて減額補正を組むような状態ではないんですか。その点、どう二ことでは、二二二現象が起きたか、執行すべき予

算が三月に食われるということは本来の姿では
ないように思ふんですが、それに対してお教へ願ひ
たいと思います。

・財政課長（長谷川広治君）お答え申上げ前個
々々問題にたりますと、いろいろ私に申上げた
ものと相反するものがあるかと思ひますが、大勢
と申しますか、減額が多くなるすう勢いと申しますか、
抽象的に申上げますと、当初予算編成の時
点におきましていろいろ計画をいたし、予算の要
求をいたすわけでございますが、その後執行いた
します体制と申しますか、人員等、関係もあり
まはう、各課が持つ事務の閑散の度合、そ
ういうものもあるわけでございますが、結果におきま
して現在、補正予算を提出する時点で大体二、

程度のもうは不執行に終るのではないかという数字
が出るわけでございます。確かに少額が減額が多
いわけでございますが、こゝ補正予算におきまして
は一昨日御説明申し上げましたとおり、純追加
額が四千二百三十万ばかり。更正減が三千三百五十
三万六千円ばかりあるわけでございます。

少額のもうは一括購入をいたします上で若干單価
が安くつたというふうなことで不用のものが出てきます。
それから大きなものでは計画をいたしたけれども人員や、
他の事務の閑散の度合によつてどうしても計画預
り、執行できなかったというふうなものがあるうと思ひ
ます。減額を減すというものは悪いのでございますが
最終予算でございますので、ある程度残存に
計上し、それに合わせた歳入を計上して行くという

考え方でございます。

一三番(山田敬字君) 減額を計上或いは追加して予算化する場合に三月に執行予算的なものを組むということが多い傾向にあるのは要するに使わなければ不用額になる。これを補正として使う。或いは執行的な予算に持つていくという傾向が強いのではないかと。思うんですが、私、そういう点に疑問があったので、お聞きしたいわけです。

不用額があること自体がもちろん困ることですが、仕事の内容で当初予算が組まれて一年間に執行すべき仕事が増えたり減ったりする場合に今のような現象が起るというところは考えられますか。

財政課長(長谷川広治君) 大体予算の執行を考えてみ

ますと、起債、或いは特定財源がつくような事業に
つきまゝでは、どういふものが内定、決定をいたして
から事業を執行するといふことが大体たてまえ
のうちにあります。また、債行として行なわね
おるわけであり、どういふものがきまります
か、起債なんかで申しますと、大体秋と申しますか、十
月以降にきまってくる。それから補助金、或いは果
の支出金等につきましても、大体後半に内示がある
といふようなことから、どういふ仕事、分量が後
半に片寄るといふくらいがございます。

私ども予算編成をいたしまして議決をいただき
ましたうちに、年間の事業計画といふものを
各課で立てていただきまして、資金操作をいたす
わけでございますが、その間に前半になるべく仕事

をしようにということと申すわけでございますが
 なんせ財政規模が小さなところでは補助金或いは
 起債が決定されないというところと財政運営の上で
 危険を生ずる危険性もありまして、やむを得ず、
 後半に遅れていくという現状でございます。

そういう関係で若干、年度の終りになります
 と、そういう面もあると思ひます。来年度から十分
 気を付けていたらないと思ひます。

一三番(山田敬宇君) 大体わかりました。たとえば、熊山
 市の場合に利子を払ってまで、促進させるとい
 うことは、いかうか。一応考えらると思ひますが、
 仕事予算が削減されたものが、平かに月費に行なわ
 れていかないと、どうしても補助金、交付金、その他
 問題で遅くなると執行するということ傾向が起こつて

くろと思うんですが、年間を通じて月滑な予算執行
をするために一時借入れをしても、必ずしも得ないで
はないかというところが考えられますが、その点について
金沢館山市はその必要はない。運営できるといって考
えですか。そういうことはお考えになったことはございま
すか。ございませんか。

財政課長（長谷川広治君）資金操作の上で一時的借
入れをいたしまして、後半に片寄る事業を前半に
おそいというふうなことは例として考えるわけでは
ございませんが、大体大きな仕事か、そういう特定財
源を持っております。特別、場合以外は私と
も、方は一時借入れをしないで自己の資金量で間
に合う程度のことを前提におろるわけではございませ
ん。一時借入れ金は御承知のとおり、財政的なものになら

まして、單に現金を作ろうというだけのもでござ
 います。そういう面からどうしても財源として起
 債或いは補助金、その他特定財源の内示、或いは
 確定を待つてから、その仕事を始めるというのが大
 体各市の実情ではないか。これは理想通りのも
 からいえば、一時借り入れ金をしても、計画通り仕
 事を前半から始めていくということは必要で、面
 があると思いますが、一概にどちらが得とか損とか、い
 こともできません。ケースバイケースで、この仕事は前半
 ではいけないから、後半に、この仕事は後半では間
 に合わないから、前半ではほかの仕事をやりに、こ
 っちをやるというケースバイケースで検討していく以
 外に、財政規模が小さい市ではやりようがないんでは
 ないかというのが現状ではないかと思ひます。

九番(三幣勇君)ニ五ページ三日の環境衛生費、十一節の
需用費についてお伺いしたいと思ひます。

百一十の減額、理由と説明の消耗品費の約款に
ついて説明していただきたいと思います。

それから二十六ページ、二目トんかい処理費、七節の賃金
清掃作業員の賃金、三十三万円の減額であり
ますが、大体館山市で一日に収集するゴミが何トン
位あるか、また一日にどの位ゴミを焼却しているか、
この点。

衛生施設課長(吉田耕一君)トんかい処理費について
御説明申し上げたいと思ひます。

一日の収集量でございますが、現在平均いたしまして
三十二、三トンが一月平均の一日の収集量とついで
あります。多いときには三十トン、四十トンを越え

るときもございます。平均いたしますと、三十三トンでございます。従いまして、焼却量の方でもございますが、三十三トンは、焼却してあるというふうに私も見ておるわけでございます。一か一ながら、日に五トン、先ほど申し上げましたように、三十三トンというときもあるわけでございます。そういふときには、五トン程度の残量が翌日に降り越さぬときもあります。が、できる限り、その日も焼却する、という考え方で、現在進めております。なお、特に夏になりますと、水分が大体九二・三％に上るといふことから、その量のふえる工合が急激にふえてくるという点から、夏季の焼却につきましても、大体多いときで八トンから九トン程度残る日がある、という現在までの状況でございます。

保健衛生課長（綱島憲治君）私どもの方で實際担当する職員が三名お亡くなりになってございますが、去年ひとりやめまして空間がございまいたけれども、實際私ども全市の蠅や蚊、駆除を積極的に私どもの方で計画をいたすには、ちうとできないような人員でございまして、従いまして地元の要請にこたえて私どもの方が出かけて、どうかが現状でございまして。

本年度今までやっておりますのが、大体部落と小中学校、部落でも個人々もでないところ、或いは市内にございます、大きな排水路等にとっているわけでございます。實際には百方々更正でございまして、けれども全部が全部、あそこを焼却場ができたから、採いたというものでないと思っております。

私どもが力及ばなかったこと、それから職員がひとり

をめて後任が得られないで、もう五ヶ月位でひとり
補充ができた。そういうことも減った原因でございませ
九番(三幣勇君)課長さんのお話を伺っておりますと
予算を立て方が非常にずさんなように感じられる
わけですが、一応これは当初予算を立てるときに
きちんとしてた計画を立てておいていただきたいと思いま
す。

それから二大ページの二目どころかい処理費についてですが、
ゴミ捨て場に捨てておるゴミが相当あるようにも
聞いておりますが、その実情はどうか。それを一つ、
。衛生施設課長(吉田耕一君)現在焼却場ができません
大部分を焼却場で処理するという、状態にござい
ます。が、まだ現在、焼却場の上流にございま
す。従来捨てております。地域にある程度、ゴミ

を捨てておる方が事実でございます。私も
あそこ付近の環境の面からいたしましても、あそ
こに捨てない方がいいという考え方であるわけござい
ます。なお、ここにさく等も設けましてあそこに
捨てるのを中止するよう措置もするわけござい
ます。が、なかなか完全にそれを止めることもできない
現状でございます。

なお、一方私も焼却いたしまして残灰を従来
捨てております上に捨てていくという考え方で一
日に三回乃至四回、搬入をしておるわけございま
す。そういう面も含ませまして、夕方或いは日曜
日とか、朝早くとかいうときに一般の捨て場になら
ざるが、現状でございますので、そういう面を避
けるようにやうであるわけでございます。なかなか、

現場へ管理等につまみつけて十分な徹底がなされ
おられないと考へておるわけであらうといふ、あう付直に
も、まだ御迷惑をしておると考へるわけであらうといふ
できるだけ、今後、そういうことにならないように努力して
いきたいと思います。

議長（吉田勇治郎君）午前會議は二いにて休憩い
なします。

午前十一時五十九分 休憩

午後一時 十分 再開

議長（吉田勇治郎君）午後出席議員數 二十三名、
休憩前に引き続く會議を開きます。

九番（三幣勇君）焼却炉の焼却能力は一日十トンが三

基三ナトンの焼却能力があるように伺ったんですが、先ほどの課長さんの御説明で一日三十二・三トン焼却してもゴミ捨て場にも捨てておるといってお話でございまして、この賃金も三十二万の減額と関連して、減額するよりも時間外手当とかそういうものを出して能力だけのもうを使つていただきたい。能力をフルに使えない原因があるかどうか、御説明いただきたい。衛生施設課長（吉田耕一君）賃金の減額に対する御質問ですが、これは作業員等で賃金で当初採用したものが、減員にかつたこと等による使用見込みが、ないということで一応今回見通しもつきまいたが、この金額も減額いたらない。このように考えるわけでございます。

それから三ナトン炉をフルに使わないかという御質問

間だと思ひますが三十トンと私どもフルに使うように
努めておるわけでございます。先ほど申し上げま
したのは現在、収集の面からいたしまして大体平均
一トンを三十三トンが市内から出ます。ゴミ
だというふうに申し上げた次第でございます。

。九番(三幣勇君) 大体説明はわかりました。市長の
施政方針にも三本の柱の一つとして観光地と
育成する。熊本市はこういう環境衛生というこ
とについては非常に重要性があるのではないか。
また市民生活にも欠くべからざる重要性がある。
三というふうに解釈しますか。今後とも環境
衛生については十分よろしく願ひたいと思ひます。
。二三番(小沢恵太郎君) ただいま九番議員の御質問に
焼却炉の問題があつたようにございますが、私

は焼却炉でなくそう上にあるところうりぶらう
いわるるゴミ捨て場。こゝに對する市の見解を
聞きたい。いつまでもちものか。廃止するものか。三
トシの焼却能力を持つところの焼却炉において
夏場とうてい消化しない。ミウいう場合。こゝ
は来年度予算に關係してくるわけでございます
が、いつもその場、かゝる言葉、か關係かれないと
いう現状なんだが、觀光、その他、面から考えて
また市民の衛生面から考えて、ニグトんかいに對
するところの処理。こゝに對する一ツかりの見解
をお伺いしたいと思ひます。

・衛生施設課長（吉田耕一君）お答へ申し上げます。

ゴミ捨て場の今後、措置という点でございしますが
私どもも、埋め立て式、ああ、なゴミ捨て場という

ものは廃止していくという考え方で現在進めておるわけでございます。現在ウゴミ捨て場につきましてもは多少まだ捨て得るという考え方もございまして、うで、あの上に残灰を捨てまして、そうしてある程度、ウ客上をいたしまして、あそこウ処置を継続しない。こゝような考え方でおるわけでございます。

なおゴミウ焼き場、今後ウ考え方でございしますが、夏季になりましてウ増加に対する措置といったまゝでは、ああした埋め立て地に捨てないような方向でいきたいと考えます。なお制限以上の収集量に對しましては、人員を交代する方法、それから、残業をいたしまして増量分の焼却に努めていきたい。こゝように考えるわけでございます。実際に八時間稼働して三トシというところで停ができておるわ

けでございまして。従来毎日やっております。稼働を
 見ましても八時半に職員が出まして、それから町
 に収集いまして、収集してきたものが、大体平均
 しますと十時から十時半頃第一回となるわけ
 でございます。そうして五時前に一日の収集を
 終るといふ過程でございまして、夏季は昨年
 実施いたしまして体験からいまして、これを二交
 代制でいけば、夏季の増量分に對しましては、焼却可
 能であろう。こういうふうに考えるわけでございま
 して、四十トン以上のゴミに對しましては、二交代制で
 もう、完全な焼却をいたさない。すぐに増設と
 いうこともまだ考えておりません。現在が昨
 年二交代程度で十六時間、程度の焼却時間に
 ございまして、何とか増量分の焼却をいたさない。

このように考えてゐる次第でございます。

・ニニ番（小沢恵太郎君）わかりました。そうすると現在上流にあるゴミ捨て場を廃止するというんですが、これはいつ廃止するの。それからこのゴミ捨て場に対する市のゴミ車でないで一般市民が車で捨ててゐる。これに対して市民にどんなPRをしてゐるのか。たとえばアミ、段の、かす。電柱の碍子、或いはビニール、くす。或いは家の回り、このさばらしい木、樹木の枝、あそこにも何でも捨てるといふ感じを持つ。そういうものを捨ててさうつかえないのか。またこれは考えなければならぬのか。そういう点が市民に徹底してないというところが一つ。それからこれは業者ではないかと思ふんですが、ガラスをたくさんトラックに積んできて捨ててゐる。そうすると現在このゴミ捨て場

は大水が出ると年に何回か洗われる。そうして危
険物が流れて海に流れ落ちる。傾向がたぶん
にあります。三つという面。これをどう考慮してお
るか。

それから現在捨ててはならないという通行禁止の
札が立ててあるが、それを破り、車が入ってある。
車を取ってある態度。そのもうがあやふやである。
禁止するならば禁止する。三つというもうに対して
しつかりた態度で市民をとりこめて啓蒙しても
らいたいと思うが、これはいつて、今後、課長さん
の見解はどうか。それをお伺いいたします。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。

第一点、現在、埋め立て式、ゴミ捨て場を廃止す
るか。いつ廃止するかという御質問でございます。

私どもも廃止する考え方であります。

ただ、時期等につきましては、まだ、多少う余裕がございますので、その面へと残灰を捨てまして、客土をいれまして、あそこを捨て場を廃止すると思っております。つまり、いつという点につきましては、はっきりといたっておりませんが、そういう段階に進めていくという考え方である次第でございます。

それやう一般へ周知はどうかという点といたしまして、いまですが、まだ、私どもう一般へ周知徹底という面は欠けてある点もあると思っております。従いまして、今後は今までやっておりますような方法でなく、もうさう御指摘もございまして、たうに毅然たる態度で進めたいと思えるわけでございまして、従来より河川にゴミを捨てたりしてお

ったときと同様に周知徹底というものが理想的に進め得ないのが現状でございます。

あそこの場合でございますと、完全にくいを打って入れないようになってまいらうという二点にたりますと、部落の農耕の耕耘機等が入入という面も考慮しなくてはならないという点等からなかなかはつきりとするという面まで現在進められないのが現状でございます。

それから三番目、あそこに一般は捨てていいかという点でございますが、捨ててはいけないういうふうに指示、注意等もいたっております。それから、危険物等に対する処置でございますが、現在燃焼不可能に近いもの等については、一応あそこに捨てておく場所もございますまいので、そこに捨てさせて

おるが現状でござります。

ガラスとか、そういふ危険物につきましても、一に、あそ
こに持てこさせてある程度、分類をいたします。あそ
こに捨てさせておるものが現状でございます。

ーカーながら、御指摘のうように河川をそばでございま
 して、排水等によりましていろいろ河川へと流れ込
 む、危険等も十分あるわけでございますが、できるだけ
 そう、水面につきましては、最終的にはある程度、暴
 土を止めて、終止符を打ちたいと努力しておりますが、
 今後とも一般への周知につきましては、いろいろ方法で
 もって徹底をいたしますように努力いたしたいと思います。
 二つのように考える次第でございます。

二番（小沢憲太郎君）ただいまう説明で了解はいます
が、二つはなんでも等しい長さにしてゐることであつて

いづ終局に達し得るかという一事には残念ながら、
疑問を持っておりますが、一応来年度あたりにおきまゝて二つらに對するもつと一ツかりた方針を
たててくれるようお願いいたします。

五番(藤田益治君)一、二点お伺いしたいと思います。

まず一点を最初お伺いして次う点に入りたいと思
います。一、という二とは二の補正を見ますと、需用費
一、更正減額が非常に多く各款ごとに見られます
が、その原因と理由を御説明願いたいと思ひます。
財政課長(長谷川広治君)總体的なものでございま
すので一つ一つ面になりますと若干の相違は
あるかと思ひますが、すう勢と申しますか、申し上
げますと、午前中にも申し上げましたとおり、いろ
いろ計取をいたしましてありますが、各種の事情から

若干の余裕を生ずるというものを最終の補正予算におきまして減額をしておるものが横行と申しますか、実情でございしますか。

私どもとしては、この金額はできるだけ少なくということ、四十年度の三月の予算を見ますと、四千五百三十万ばかり、更正をいたしておると思いますが、四十一年度分につきましては、三千三百万程度におさる。当初予算の繰をくすさないというところで、やつておるわけでございしますが、どうしても若干の相違ができる。その相違は個々に入ってきますと、品物を買う場合の一括購入により、安くなったために、それだけもうものが残ったということ。それから、工事なんかの場合、入札と設計金額との差額から生ずる不用額というものがあるわけでございします。

個々のものに なりますと いろいろ 違いますが、大勢
は そう いうに 考えます。

五番(藤田益治君) ただいま お伺いすると よく わかりま
すが、そう 需用費、不用費、計算して 三十三件
総額で 四百十九万七千円、そう 大体、もう、印刷
制本費とか、または 消耗品、という、う、面、に、片、寄
つて、いる、面、を、御、説明、願、い、たい、と、思、い、ま、す。

財政課長(長谷川広治君) 大体 需用費、のうち、印刷
製本費に 更正、額、が、多、い、と、い、う、こ、と、で、ご、ざ、い、ま、す、が、
こゝは 予算、締、成、り、時、点、に、お、き、ま、し、て、印、刷、物、を
外、注、に、する、か、役、所、の、内、部、で、印、刷、する、か、と、い、う、段、階
で、い、ろ、い、ろ、協、議、を、い、た、い、た、わ、け、で、ご、ざ、い、ま、す、が、で、き
る、だ、け、内、部、で、印、刷、を、する、う、に、と、い、う、こ、と、で、予、算
編、成、を、い、た、い、ま、し、て、や、む、を、得、ない、も、う、だ、け、を、外、注

に於いた予算を編成してわけてございしますが、その結果
できるだけ内部で印刷するようになっています。強く
押し進めたために印刷製本費で若干の余裕が出て
おると思いますが、そのような状態でございます。

五番（藤田益右君）大体了解いたしました。それに付随
いたしまして三ページ七款商工費の二目、十一節
の印刷製本費の十万円について当初予算は
十三万五千円で、そのうちに執行されたが食料費
二万円と消耗品の一万三千円でありましたが、ニ
また印刷製本費がそのまま形で残っております
ことが一点とそれから三目の観光費の十五節の
工事請負費の三十四万というものは執行されて
おるが大体半分位で二万三十四万の減額について
お伺いしたいと思っております。

商工観光課長（山田俊康君）第一点の印刷製本費

につきまゝですが、これは当初市内の物産関係者がパンフレットを作成したい。そうしてPRに努めたいというので予算化したわけです。現実そう指導は当りまゝで市内の物産関係者にいろいろとお世話した方があります。遂にこの三月末までまとまる見込みがなくなり、もう一度来年度にというふうな事になった。まあ、私ももう指導する悪さを申しわけないといっております。

第二点の工事請負費関係でございしますが、御指摘のようによくない。約半数しか使っておりません。

この大きな原因はキャンプ場の管理事務所が改装とキャンプ場におきます。改修場をどうしても

建設しなければならぬというような状況下におきまして
予算化いたすてあります。ところがいざやろうとしま
したときに、底意的なブロックをついた仕事場、或いは
管理事務所といったしましても大改装、かくても
小修理で応急修理で間に合うという見込み
がつかないで、当初大改修ということとで考えて
おりましたのを小修理で何とかなる。

たかふの給水施設等につきましても、当初見込み
ましたときには新たに作らなければならぬものでない
いかというところで、予算要求段階ではいたしま
したところ、現実に現場におきましては、シャワー
設備から分岐できるという見込みも立ちま
す。相当な減を出さうなはめになったわけでござ
います。

五番(藤田益治君)大体課長さん、御説明でわかりました。今後の問題として十分御検討ください。まーおやりになるようお願いいたします。質問を終わります。

二番(小柴孝君)簡単な質問でございますが、教育予算の高等学校費でございます。一万二千円という用地購入費というのがございます。すば、二小について御説明願いたいと思います。

教育委員会庶務課長(干場伊右エ門君)二小関係は、館山高校の高橋良太郎ほか七十九名の共有地の関係でございますが、二小を昭和四十一年度で二小予算をお願いしたんですがございますが、それが買収できないで、四十一年度になつて四十四名当初予算でやつたんであります。それから追加で

二十名ばかり。今回二名分をお願いして合計
六十六名分になります。それから最初から七名
というのは行方不明だと言われておりまして、
七名とあと七名、十四名というものがまだ整理
未済にござる次第でござります。

二番（小柴孝君）実情はそうとおりでございまして
よくわかりますが、現在においては県立高校にならな
るという関係で県立高校の敷地をいつまでも市
が負担しなければならぬということであと七名も
わからなければあと何年かかるかわからない。

やはりその時期になつても県立高校の敷地を
市で払つてやらなければならぬという段階でござい
ますか。現在。

。教育委員会庶務課長（千場伊右エ門君）ニイ関係は。

県立移管のとき条件として、現在あるものは市で購入して県に寄付するということ、そして購入に至らない間は市で賃貸料を負担するということになります。現在わが次第買収していくという方策を取って進めております。

二番（小柴孝君）不在者のわからない点を早く究明してなるべく早く整理するように希望いたします。次は土木費の問題であります。関連事項で申し上げたいんですが、実は館山市役所の脇の道路、館山高校のところが狭くなっております。校舎に係るということとで狭くなっておりますというのに想像いたしますが、さういふ偶然あそこにかかったときに小学校の三年生か四年生、向こうからライト

う先で自動車が行わすきた。ライトに目がくらんで
倒れた。ちうと一メートル位でひたひたそうになつた。

自転車倒れてひざ小僧をすりむいた程度でござ
いまーだが、運転手がぼんやりしておるとひいてま
う。一命を落とす危ない面に遭遇してまう。
こゝ道が結局うまくできないからこゝういうこともある
こゝういうふうに直感ーたわけであります。

こゝ道聚う改良については現在どんな段階にあるか。
学校が校舎でも新築ーたときに取りはらうという
条件でもつておるのか。ーばらく放置しておくと
いう段階か。そういう点について見解をお聞かせ
願ひたいと思います。

生木課長(飯田治男君) お答えいたします。一番最初
の年度に改良ーたときに一応、館高の現在う

校舎を切り取りまして改修する費用が見込まれておたわけです。ところが将来、学校の改築をするという計画がある中で、その時点で改幅するということな話になつてゐるわけで、先日、建設委員会を開きまして、たときにも、ある問題を、取り上げらるゝて、皆さんといろいろお話をして、たわけで、私にとつても、いつになるかわからないような計画を待つてゐないで、早急に学校当局とも話合つて、土地は、学校を移管するときに、道路敷地として、確保してありますので、問題は、建物だけを解決すれば、道路の改良工事もできるわけですから、何とか早い時点で改修したいと思つております。

二番（小柴孝君）結局人命にかかわるような問題が急に狭くなつておるために、起きたと私は見たわけ

で事故を起こしてしまつてごまを見ろと言わゆる
そういう事故を未然に防ぐニハは市長の方針でも
ございますので、ニハは努力を願ひ要望して終
ります。

ニハ番(望月照正君) 先ほど九番議員の方から消耗品
費が百一万ですわ。質問がありまして、ニハに關
連いたしまして、ニハお伺いしたいと思ひます。こ
いつまゝして先ほどいろいろとこのやうな減額をした
と聞きまして、消耗品が当初予算は、いかほど
だったか、不勉強で申しわけないんですが、お知ら
せ願ひたいと思ひます。

保健衛生課長(綱島憲治君) その關係部分の消
耗品費は、二百三十五万五千円でございます。

ニハ番(望月照正君) 二百三十五万五千円組んでその中

に焼却炉の前で薬剤散布はどう位に見込み
 しておったのか。それをお伺いしたいと思います。

保健衛生課長（岡島憲治君）　そのとき予算でございますけれども、そうかといつて、いうふうに区分けをしてないわけでございしますが、大体油剤を二百五十かん、乳剤を二百五十かん、粉剤を四十かんというふうな薬剤として、は、そういう予算になつてお
 ります。

ニハ番（望月照正君）　主管課長さん、これは、館山市の環境衛生のことを考えますと、焼却炉の前で捨て
 場、残ら、それから、海岸、道路に残らとか、いろい
 ろな計算があるわけですね。

先ほど、焼却炉のところは散布じゃなくて、よくなつ
 ちから、これは、減額更正になったということと

おこしやいまいたが、大体、やすかづいていっていると思います
が、もういっぺん答弁願います。

保健衛生課長(鯛島憲治君) 薬品が残額については、
主たる部分があるというところでございします。
二八番(望月照正君) 課長さん、主たる部分が焼却炉の
前、捨て場に対する薬品散布の代金というのことは、何
なりまうと、課長さんのおっしゃる主たるというのは、何
位のことかというておるんですか。

保健衛生課長(鯛島憲治君) 大体七〇％程度だろうと
思います。残りの一〇％でございます。

二八番(望月照正君) 最初、何％か。
議長(吉田勇治君) 暫時休憩いたします。

午後一時五十分 休憩

午後二時三十分

再開

議長（吉田勇治郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。
答弁を求めます。

保健衛生課長（岡島審治君）薬品の金額が二百二十四万円、余り当初予算に対して一般家庭四、ゴミ捨て場五、学校等公共施設が一、この程度で割合で組んだわけでございまして、先ほど申し上げましたようにゴミ焼却炉ができた関係上、大体その金額にしまして、七十万程度の節約ができた。もう一つは一般家庭からの申し込みが先ほど申し上げましたように、私どもの方で手配できないこともございまして、部落にまっして、そういう申し込みもございまして、その方が関係が額というふうにございまして、

二十四、五万程度、二ヶ月も年間を通りまして、現在の段階で余る見込みでございますので、補正をいたいたわけでございます。

・二番(望月照正君) 先ほど、課長さんの答弁の中で、私の数字が聞き違いかどうか知りませんが、先ほどは二百三十五万五千円というふうに聞いたのでございますが、

・保健衛生課長(綱島憲治君) 二百三十五万五千円と申し上げましたのは、需用費全部でございます。そううち、薬剤関係が二百二十四万余でございます。

・二八番(望月照正君) 一から、当初予算にじんあい焼却炉、ゴミ捨て場、ところを使う、薬剤散布費が五割を占めたという、ことになりますね。

五割を占めていたということはあくまでも昭和四十二年
 度五月にはじんかい焼却場が完成する見込みで
 去年は非常に夏までには処理場ができるのだと
 いうんで期待をわれ損ねて持っていたんですが、
 結局去年の段階で一カ年分の薬剤散布の予
 算を処理場ができて上るのを^{承知}見込んで~~準備~~おいた
 ということになりますか。

・保健衛生課長(潮島審心治君) 結果的にはそういうこ
 とに相なりまして申しわけないと思います。

・二八番(望月照正君) このようなことがありますが、い
 ろんな予算の執行につきましてあとで疑念のわ
 ような数字がでてくるわけでもございまして、こ
 うなような数字がでてくるといって、我々期待を
 持つておるときに薬剤散布を焼却場ができるかどう

わからないうちから一年間分の予算を取っておくのだ。まことにずさんな予算の組み方であろうかと思ひます。ぜひ来年からこういうことのないようにお願いしたいと思ひますが、もう一つは先ほど人々不足のため一般家庭の薬剤散布が減つたのだということ。これは市長が常々言つております。三本の柱の観光というのと、~~観光~~考えますと、観光にはこと環境衛生というものが必要である。このような私判断するものでございますが、そういう場合にも必ず不足がある。薬剤散布ができない。蚊や蠅が派生する。人事課長はどうですか。ひとりでも、ひとりでも回わしてもらえないか。そういう要請をいたしたかどうか。聞かしてもらひたいと思ひます。

保健衛生課長(綱島憲治君)これはもちろん私も

方では要請いたしまして。ただ、それが運転免許証がある人でなければ困るわけですね。その関係で若干遅れたわけでございます。

現在は一月にたつてから、それを確保できまして三名おります。

二八番(望月照正君)一名の不足は去年のいつからですか。いつからいつまで不足だったか。当初の一般家庭に見込んである分と一たら六十万一かないわけですよ。それに不用額が三十万だというところ。半年間というものは、半分の消化しかできなかった。何人であつて何カ月ぶりか不足だったか。そろばんをどういうふうにはつくのか。教えてもらいたい。

保健衛生課長(岡島善治君) 確かやめられたのは八月だと記憶しておりますが、ここに部落で行な

いまにもが算定してございますので申し上げて
みますが四十セ町内会 三千三百八世帯で金額にい
たしまして三十八万九千四百四十円というものが部落に
出されております。それが一番最初に申し上げま
すように私ももう方で積極的に計画的に行な
うことが現在う段階ではできないような状態でご
ざいます。呼びかけをいたしまして部落の方にお
いていただいて仕事を進めておるような状態でござ
いますので、むしろ申し込めといえますが、形とすれば
そういうものを受けてから、実施しておるという現
状でございますので、二十何万ですか、金額を余
まいた。こういうことになるわけでございます。

。二八番(望月照正君) 課長さん、私う聞きますのは、
そうではなくて作業員が何人いてその中うちひとりが

欠員を生じた。そのために薬剤散布が少なくなつた。何人いてそうちう何人ゐらうて、ゐらうたのが、何カ月だったか、それを聞きたいということですよ。

保健衛生課長(岡島憲治君)現在環境衛生を担当してゐる職員は三人でございす。昨年確か八月だったと記憶してゐるすか、ひとり事情でゐらうて十二月いっぱいまであとう補充がつかなかったというにとでございす。

ニ八番(望月照正君)そろばんが大分合いませんけれども、三カ月いて八月にひとりゐて十二月までひとり欠員であつた。正月からひとり増員して三人にやつた。

三人が最盛需要期、六月、七月、八月は従事

していたということ。ひそりが八月から十二月までやめることにまつて散布が半分しかまけなかったということですか。

保健衛生課長(岡島 善治君) そのことだけが原因ではございません。先ほど申し上げたように部落の方で態勢が整いまして、そうしてやることになって、私どもの方からみかけると、こういう状態でございます。それと、まともになりませんと、あつておらなかつたわけでございます。そういう理由でございます。

二八番(望月 照正君) どうもはつきりわかりませんが、これからあること、ぜひ市民の衛生のために願いたいと思います。課長さん、今年はそういうことにならないように願います。

それから小学校費の問題につきまして二三お伺いしたいと思ひます。

非常に端的な質問を申し上げますが、小学校費の中でいわゆる小使の室にある割りはしどか、はしどか、ああいったものはPTA会費でまかなうものか、需用費の中でまかなうものか、それをお聞きます。教育委員会庶務課長（千場伊右エ門君）小使の室にあるものでも小使が使つてなく、学校自体が使つものというふうな考えて、そういう場合には当然市費でまかなうものかと考えます。

ニ八番（望月照正君）それは親のしつけが悪いというか、子供がお弁当の中にはーを忘れた。そうはしを小使の室にもらいにいった。そのおいてあるはし、そういうものはこっちでまかなうのが常識なんですか。

教育委員会庶務課長(千場伊右衛門君) 学校の子供が忘
れてきてそれを借りに行くというふうな場合には、これは
PTAで出してもさうつかえないんではないかと思いま
す。

ニ八番(望月照正君) PTAで出してもさうつかえないという
ことは需用費で出してもさうつかえないという事です
か。実はこれは学校教育の教育という前う問題で
す。実はこの前、市う需用費が足らない。PTA
の金もないのだ。だから、小学校三年生う子供にあ
なたはもう二回も忘れたのだから、鉛筆でごはんを食
べなさいと言われた。そういう学校の教師が確かいる
と思うんですが、そういう指導はこういうふうにして
おりますか。お伺いしたいと思います。

学校教育課長(山根春夫君) 今うようなお話ですが、

これは教師の良識にまつ以外にはないわけでござ
います。そこまで私たちがいつて具体的には指導
しておりません。先生方いろいろな教育観につ
いてまた子供、児童心理などについて講習等は
講をいろいろ頼んでやつております。たまたま先生が
そういう会に出ておらなかつたかもしれません。そういう
ことで先生方研修は一番大事なことでございます
からやつておりますが、私たちが監督、不行き届きと
いうことになるかと思っております。

二八番(望月照正君)非常に先生としては、ナンセンスな話
だと思ひますが、(三)いうことは絶対にないように早速
調査して必ずしますから、調査して嚴重に注意
していただきます。二つように思つております。

次に先ほどから、同僚議員から、いろいろ減額更正の

問題につきまゝ質問等がございしますが、財政課長が非常に適切な御答弁を願つてゐるやうでございますが、何か主管課長や皆さんが答弁しづらういふように見受けらるんですが、全般的に減額更正である。何かそこについても答弁し、達者な主管課長や皆さん方が答弁しづらういふこと。財政課長さんそこらに何かありませんか。(笑声)

財政課長(長谷川広治君) 今回、補正は最終的なものでございまして、現実問題としてある程度、補正が出るというよりは、むしろ得ないと思ひますが、先ほど御説明申し上げましたとおり、本年度と四十一年度を対比いたしましても、四十一年度約四千五百三十一万程度、最終予算で補正をいたしてございします。今回四十一年度分につきまゝではなるべく当初

予算の線をつくすまいという配慮から、三千三百万程度にとどめてなるべく執行するようというところでございりますが、別にほかに他意はござりません。

八番(黒川正君)ニセページの上水道費の中でございます。繰り出し金が一千万という数字があるようでございますが、これは特別会計の方でお伺いする方が妥当かとも思いますが、さうつかえなかったら御答弁願いたいと思います。

一千万という数字は相当大きな数字なんです。これは計画変更されたのか、基礎調査がずさんだったのか、そうために計画変更されたのか、受け渡しの額が安かったのか、もしさうつかえなかったら御答弁願いたいと思います。

衛生施設課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。
繰り出し金の減額一千余万円でございますが、
これは当初大体の概括設計というものを作ったわけ
でございます。そして、こう当初予算に計
上したわけでございます。その後、実際に認可
設計、それに伴います、実施設計の段階に至りま
して、一応南部簡水については、河川をせきとめ
まして取水をするというような考え方であったわ
けでございます。

一か一ながら実施設計、段階に至りまして、あそ
この地層の関係、或いは、河川の狭いという、
関係から、予定量を取水することが不可能だと
いうような結果を見たわけでございます。

従いまして、その後、それに変わるべき取水を考え、たわ

けでございます。その結果地下水にあります取水ニヤ両方を合わして取水源にするという決定を見なければなりません。

そういう関係から相当額の工事費の減を見ておる。それに合わせまして入れう結果になりました。でも予算額から見ますと相当額の減額があるわけではございましてニヤ程度減額でき得るというところから一般会計から繰り出しする予定でございまして、今一回一千余万円を減額しようというものでございます。

○九番 島野茂樹郎君 ニニページの見直し福祉費についてお伺いしたいと思ひます。

八節 報償費 一万円と十一節 需用費 四万円が減額になつておるわけですが、これは私

ども、記憶に間違いないが、十二月に補正を
されたものが、今回使われないで、減額されておる。
こういうふうな理解するわけですが、いま一度、この
内容を御説明をいただいて、それから先に進み
たいと思います。

。福祉社事務所長（池田亮山君）御指摘のとおりで
ございます。これは十二月と記憶しておりますが、
県、指定を受けました那古船形地区の青少年
の健全育成推進モデル地区ということ、十二月に
補正を願ったわけでございます。その額が十八万六
千円と記憶しておるわけでございます。
まず、当初におわび申し上げなければなりません。は
係長一名でござりまする。若干仕事に残り
ができておったことは事実でございます。

現在まで補正一より合計五万円でございます。今の指定のひもつき事業としてもらいます。今の執行はおおむね執行はしておるわけでございます。なお五万円を補正一にしてもらっても、その以前からの需用費その他経費が節約いたしましてその事業に充ててひもつきと申しますか、いわゆる果が指示してあります仕事は何らかの方法で、こゝから幾日かうちにこの仕事が果の指示の通りにそうような仕事を完成をうていきたい。かように考えておるわけでございます。

○九番(島野茂樹郎君)　そうですねと果が委託金として十二月に補正をいたしまして十八万六千円、これに相当する事業はもうすぐで行なつた。或いはあと残存期間に十八万六千円に相当する

予算の執行は果から委託された仕事は目的を達
成する。ミラというところでござりますね

・福祉事務所長（池田亮山君）御指摘のとおり努力して
参ります。

・九番（島野茂樹郎君）聞くところによりますと、地えでは
予算と言いますか、金がないためにいろいろな計画を
して、それが市から金が出ないためにできなくなつて
—まうという声を実は聞いたわけですよ。

従つて十八万六千円という果の委託金そのものがど
うも地えの人の理解にましますと、額面通り出て
いまいという理解に立ってゐるのではないか。ミラいう
ふうにも聞かぬ。聞いておるわけですが、この点については、
そう—ますと、果で委託された十八万六千円はすう
かりそうまゝ出すというふうについていいんですか。

もう一度はつきりお答えいただきたいと思っております。

福祉事務所長（池田亮山君）　そうとおりでございます。

こゝは補助金がついてありますので、それだけは執行しないと返還せざるを得ないわけでございます。今お話し金がないからというふうなことでございますが、こゝは補助金ではないので、こゝ十八万六千円は補正予算のときに御説明申し上げましたように健全育成のパンフレットの制作とか、そういうような会合を開くとか、そういうこともございまして、直接現金でその地区に交付されるものではないわけでございます。

一九番（島野茂樹郎君）　大体課長のお話わかるんですが、八節の報償費並びに需用費、こゝは今までの予算の総額といたしますか。当初予算、或いは

補正予算算を含めて一体幾らになつてゐるか、教えていただかないと思ひます。

・福祉事務所長（池田亮山君）当初予算が五万五千円でございまして、そこに一万五千円の追加をしたわけでございします。合計七万円でございします。それを今回一万円補正いたしまして、六万円になったわけでございします。

需用費でございしますが、当初六万円でございします。そこに十万円の補正がなつております。そうして、今回それをまた四万補正したというわけでございます。〇九番（島野茂樹郎君）わかりました。果からの委託金を十八万六千円を額面通り青少年育成のために額面通り使うということでございますので、私、質問は打ち切ります。

ニハ番(安西益男君)ニッページヲ総務費ヲ七節ハ八節
についてお伺いします。

七節ヲ交通整理員賃金が五十四万減額という
ことになつておりますが、これは当初百四十万計上さ
れておつたと思ひますが、これは最初のうち人員が
そろわなかつたのか、どうかというのと、現在では五名の
人員がゐるのかどうかというのをまづお伺いします。
それから又ハ節ヲ交通相英関係ヲ弁護士謝
礼十二万月、これは全然使われてないわけではござい
ます。これは弁護士に依頼するやうな件がな
かつたのかどうか、最初二点についてお伺いいた
します。

・商工観光課長(山田俊康君)

お答えいたします。第一点ヲ賃金五十四万、交通

整理員、賃金でござりますが四月発足四月一日迄
二十四日一人九月十日一人 最後は一月二十二日
一人現在五人全部そろつております。交通整
理員として当初計画いたしまして四月当初から五人
全部配置という態勢がただちに得なかつた
その関係でこの賃金がこれだけ減額が出てしまつ
た。

第三点、交通相談所関係でござりますが、果して
回交通相談所が毎月一回館山市に訪れておりま
して市の方で当然交通相談等を受ける。今まで
も何回か弁護士に相談しなければいけないかなと
いう感じを持つた中であります。その措置と
して巡回相談所がある中で、その開設の日には
ついで下さいというところでお願いいたします。全部

が弁護士を頼むほどはどうかとはなく相談員によつて処理されたというものが実情でございます。

・一八番(安西益男君)七節の説明についてはわかりま
たけれども現在五名う人員で増員一なくても
いいか。どうか。その点。それから果から巡回相談
が月にいっぺんある。私も先だつてそのときに参りま
したんですが、大体七八名位ではないか。多くても
十人位ではないかとめやすをつけております。
一カ月における交通事故の件数は相当あるの
ではないか。かように思うわけですが、十二月の定例
会におきましても交通相談所を設置をという
お願いをいたわけでありすが、市長さんの答弁
り中にも非常に趣旨は結構なうで十分検討
するというふうなお話があったわけでありすが、

防衛するためには、当然、さういかなければならない、
 というところで考えております。

現在、指導員、訓練は警察署、或いは自動車教習所等にお願いたして、当初約二週間程度、ぼつぼついろいろな研修会講習会等出て、一カ月以上、かかつて、もう一人前になつております。また、研修の期間中で、研修があるたびに、出ております。そういう形で、一かも現在、さうしております。各学校を主体におきまして、幼稚園、学校、生徒とおかあさん方も一緒に集まつても、ラッパ、交通ルール、或いは交通教室というふうなものを、開いて、それに努めております。

本年は、二、五名でフルに活動して、各地区にも

おしまーておかあさん方とつ話ー合い、機会を
設けてゐてみたいと考えております。昭和四十
三年度におきまーて、増員する計画は現在の
ところ持てゐりません。これをフルに活用して
いきなひと考えております。

第二点の巡回相談所だけに頼らずに市独自でと
いうことでございますが、現在市の商工観光課
の交通係におきまーても、一応まかりなりにも御
相談を承ております。これらの点について、
凡が非常に不足してゐるという御指摘をいた
だきまーたゞ、早速広報等にもうせまーて
やれずるとともに、警察署等におきまーても
交通の問題について、いつでも相談できる。お相手
をいたしますからとてゐる。それら

と合せてPRして被害者救済の道を大いに開いていきたいと考えます。

二八番(安西益男君) 市で保の人もおるといふことでありますので、積極的にならねばならぬ。PR願いたい。こういうふうな思ふであります。が、実際問題として各市でも交通事故の激増には、相当神経を使っております。で、熊山市におきましても、交通安全宣言都市という面からも、本当に巡回の相談所だけでなく、どうして現在こういう事故者に対して相談も十分ではないかと考えております。いろいろな示談の方法とか、賠償金の算出方法とか、そういう面で非常に困つておるといふ面もあります。で、積極的にPRしていきたい。こういうふうな思ふで

おります。

・二四番(田中祿郎君)ニ、三お伺いしたいと思ひますが、一九八一ジの財産管理費の中、積み立て金、財政調整基金積み立て金、四十万四千円ですか。当初予算に組んだままで補正減にしようということになっておりますか。この調整積み立て金というものを当初予算に組んだときの趣旨ですか。そういうことを御説明願ひたいと思ひます。

それより第二点といふ――まゝ二、三ページの老人保護措置費。これはおそらく県国からくる措置費だと思ひますが、これは減る理由。それから二四ページ、生活扶助費が六百万ですか。これは医療費の不足のためとありますが、これは生活保護者に対して医療費の不要になった理由。これは生活が楽

にたつて不要となつたのか。二ついうことをお伺いします。
 それとまた「関係」ということになるかもしれませんが、小
 中学校の扶助費でございますが、二はが小中学校費
 において四十万、中学校教育については二十九万ですか。
 二はが減額になつておるようですが、二はは、やはり生活
 保護家庭の子供が減つたというわけで二ついうふう
 うに減額になつたんですか。

財政課長（長谷川広治君）積み立て金、関係について
 御説明申し上げます。二はは今まで財政調整積
 み立てに關する条例というものがあつて、積み
 立てをしております。預金、利子を予算を通
 して再度積み立てていくという方式のもので、利子相
 当額を計上したわけでございしますが、たまに二の
 財源を市民センター、建築資金として取りくず

して使用するということでは、条例等も廃止いたしまして、たゞで当然、この金額がなくなつたわけでもございまして、いわゆる制度の改正に伴ひまして、積み立て金がなくなつたということでもございます。

。福祉事務所長（池田亮山君）第二点についてお答え申し上げます。

まず二三ページの二十節の扶助費の五万円の減額でございしますが、老人措置費でございします。

これは老人ホームに収容しておりますもの、措置費でございします。これは収容の増減等により、年間最終の数字として、この程度不要になるであろう、ということでも補正したわけでもございします。次の二四ページの二十節の扶助費、六百万円の補正でございします。今まで生活保護費関係の見込みといふことにより、四

十二年度で相当額、医療費の伸びがあらうと
いうことで積算されておたわけでございます。
その当時と比較いたしまして、四十三年度はそれほ
ど医療費に対する扶助費の伸びがなかった。

その反面、いわゆる生活保護費が若干伸びております。
数字で申し上げますと、生活保護費の方で増加いた
すと考えられます。約二百万程度、それから、
医療扶助の方で減ると思われています。が、八百万程
度、差引き六百万程度は補正可能である。
こういうわけで、六百万円の補正をいたしました。

教育委員会庶務課長（干場伊右エ門君）小中学校費
の扶助費関係でございますが、生活保護関係の
ものは、修学旅行とそれから医療費関係、こ
の中に生活保護を受けているところの児童生徒、それ

から準要保護の生徒が含まれております。

あとは準要保護関係の児童生徒関係のものでございまして、それぞれ対象者が当初見込んだより減ってきているというふうでございます。

・二四番(田中祿郎君)大体一点二点わかりました。

三点目の福祉事務所長さんのおっしゃる生活保護家庭がふえておいて医療扶助の方が八百万減った。干場課長さんの方では生活保護家庭が減っております。両方課長さんのお話では片方がふえた。片方が減った。本当は生活保護家庭は、館山市では減っているんですか、ふえているんですか。

・福祉事務所長(池田亮山君)保護家庭が減ったということではなく保護家庭は横すすりでございます。

ただ、保護基準が改定になりまして補助額が上

きたというところでございます。世帯数がふえたということではありません。

・二四番(田中祿郎君)もう一つ伺いますが、これは八番議員からも御質問があります。たが、簡易水道の問題です。が、一千万減額になっております。これはわかりませんが、この水道は起債は起こしてございますか。

・衛生施設課長(吉田耕一君)起こしてございます。

・二四番(田中祿郎君)起債の額とそれから請負金額のいま一つは現場を見ますと本費をいけますが、支線はいけてない。支線をいけるうちにまた掘ってやらなければならぬ。しろうと考えいしても二重の手間ではないかと地区民も申しておりますが、支線と本線を一緒になぜやらないんですか。そのことについて伺いたいと思います。

それからもう一点、四十二年年度の償還金、利子及び割引料償還元金の方が二十一万五千円減額になっておりまして、利子の方で二百五十二万二千円です。元金の償還が減っているということは、年賦償還のために減っているんですか。それも合わせてお伺いしたいと思います。

・衛生施設課長（吉田耕一君）本工事と流末工事を一緒にできないかという事でござりますが、大体本工事を市でもって実施いたしまして、流末に关しますものは、受益者や負担によつて作るという考えで、現在実施しておるわけでございまして、なお流末関係等につきましても、全部が予定いたしません。受益負担によつて完成すればいいわけであり、ありますが、いろいろ家屋の存在、地理的な面

等によりまして不便な地域が多いという場合には
なりますると多ク、市費、導入をしなければ
ならない場合もあるわけでございますが、当初
の計画といひまして流末関係については受益
負担として皆さまにお願ひしてございます。

従ひまして本工事と一緒にということになりますと
相当経済面或いは工事面等の複雑化等もござ
いますので一応本館工事と流末工事というよ
うに区分いたしまして実施しております。

最初、工事請負金額でございしますが、数字でござ
いますのでちよつと手元に取り寄せますので、
うちほどお答えさしていただきたいと思います。

。財政課長（長谷川広治君）公債費の關係でお答え
いたします。

御意見見うとおり、年賦償還の關係によつて増減がで
きたというわけでございますが、若干くわしく申し上げ
ますと、据え置き期間が設けられたために、いわゆる
起債といつてしまつて、すぐ翌年度から元金と利
子を返していくという制度とそれから借りまゐつて
何年かたちまゐつて元金と利息を返していく。その
間は利息だけを返していくというものがございま
す。据え置き期間が設定さふまゐつたので、利子だけ払
いまゐつて元金の方が若干後年度に繰り越さふて
いくという結果もござえます。

。衛生施設課長（吉田耕一君）先ほど質問を残した部
面をお答えいたします。

いわゆる本管工事として請負させたものが一億
一千五百万円でございます。

本管工事ということは川やせき止め、小さなダムでございすが、川やせき止め工事とそれに通じます。
連絡道路、なお、浄水施設一切、それから、浄水場から各幹線や配管工事、そのほか、井戸二本掘り、また、その井戸は五百二十九万円ということに相なっております。

・二四番(田中緑郎君) わかりました。我々しろうと考えるでは、市でやらせるのだから、市一本で流末工事までやらせて負担金というものは、加入者にこつちへ納めるといふうに我々地元としても考えております。私自身としても、実は考えておいて、そういう懸念が生まなければ、ございすが、そうしますと、流末工事の方は、受益者負担であつて、全然市ではタチにならない。こういう解釈でよろしいやう

でございますか。

・衛生施設課長(吉田耕一君)私に説明が簡単でわかりにくかったと思います。この流末工事として申し上げたいのは市費をかけないでやりたいという事でございまして工事完成までは全部市で行ないましてなおこの流末の設計に基づいて実施いたします業者の指名入札等も市で全部実施してやるというふうになりまして市費をふさぐに市費負担でいくという考え方をしております。なお本工事分の負担金と流末工事負担金というものを分けて市に納めていただいてそれによって実施していくというふうに考えております。

・二番(中村省吾君)先ほど一九番議員の質問に関連してございまして納得いさませんのでお聞きしたいと

思いますが、先ほど課長さんの答弁で十二月補正に
 おいて十八万六千円の補正。今回報償費一万。需
 用費四万円の減額だということ。当初おっしゃら
 ねと思う。それを十九番議員が聞きまゝなら
 そろとおりだということ。細かく御説明があつたよ
 うに記憶してあります。そういう考え方に立ち
 まゝして、その十八万六千円がひもつきう金であるから
 こゝは現金に使わなければ使さなければいけない。従
 つてこゝは全部執行いたします。こゝのように最終
 的におっしゃらねた。では必ずしもこゝを執行しますか
 という。――ますという。ことです。そこでそういうよ
 うな御答弁があつたわけなんです。私。ち
 まと。その点で理解がいかない。――からば報償費
 が一万に。ても需用費の四万に。ても果た。て

こいだけの減額です。で三月も経日もない。この期間で果たして十八万六千円をどうように執行するか。なお、もつというならば、今までの十八万六千円の委託された事業に対しては、こいこいこいというふうに執行したというふうに言えるのか。どうか。そう一点の御説明をお願いしたいと思います。

・福祉事務所長(池田亮山君)当初に申しましたように十八万六千円もを補正したということではないわけでございます。各節をそれぞれ補正したわけでございます。一十八万六千円の部分を補正したわけではございません。

この節からそれぞれ出ておりますものも申し上げますと、まず八節の報償費から現在までの支出増額が五万五千五百五十円出ております。こいで補正いたし

ましてもなお九千五百に過ぎないが、残と打ておるわけでございませう。こつうちう今お話が来ております推
 進員の謝礼として一万五千円、こゝで組んであるわけで
 ございませうが、こゝに對する部分がこゝの謝礼が六千円
 までの支出でございませう。こゝで九千円支出を必要
 とするわけでございませう。こゝの節の残が九千円ご
 ざいませう。こゝ九千円、推進員の謝礼は年度
 末までの間には支出可能である。なお十一節の需
 用費でございませうが、補正いたしますと十八万円
 になるわけでございませう。こゝに對する支出が十
 五万八千七百七十円、支出でございませう。従つて二万
 一千幾らが現在に残でございませう。

こゝの款を申し上げますと、消耗品費で一万七千三百
 九十一円、印刷製本費で十一万七千七百七十円、食料費

におきまして二万八千九百十円出ております。
以上より支出で現在、この節から残っておりますものが
廿万一千九百八十三円になります。ここで先ほど
から申しましたものと対しまして四万円を補正いたし
ましたことにより二万円程度、財源不足となるわ
けでございます。補正一過ぎになるわけでございます。
ます。最初に申し上げましたように事務の手違ひ
から、こういうことになったわけでございます。

仕事の内容におきましては印刷物、外注というこ
とで積算いたしまして、内部印刷等でま
かないましたことを考え合わせまして仕事は当初
の予定通りであるわけでございます。

なお未払い分につきましては、年度最終まで
にはかたをつけたい。なお不足する部分

にづきまゝでは、他ゝ節、目内から何らかの方
法で流用等々手段を講じて参りたい。
かような趣旨でございます。

。二番(中村省吾君)御説明よくわかりました。

なお、そういうふうな細かく説明されると、私の方
も疑問が出てくる。と申しますのは、いろいろ課長
さん言われまゝたけれども、印刷製本について当初
予算を組むときに外注の予算だったけれども、
これを庁内において印刷するため節約した。
これは先ほど財政課長もおっしゃった。それはわ
かる。ところがこの補正さきまゝは、十二月
なんです。十二月に補正予算として印刷
製本費で十二万三千円、補正をしてゐる。
これは十二月なんです。そうすると、外注をしてないで

部内でやるというときにはすでにそのところから十二月
の時点については執行していかねばならぬ時期
です。十二月の段階過ぎではトめて外注を内注
に移行したということではないはずです。一からは
十二月の補正のときにはすでに内注ということ
はわかつていた。執行していかねばならぬ。それをそ
ういう形の中から、簡約したから出たということに
はならないわけです。こゝが一点。

それから先ほど事務の手違ひにまつて補正をし
過ぎたという説明は全然ありませんでいた。
場合によつては議事録を調べていた大きな
印刷製本費で四万円の今回減額なんです。

そうしますと当初予算におきましては二万五千
円、当初予算のうまいかない。当初予算に二

万五千円です。あなたは十二月補正については、一切手をつけてございませんという、手をつけないものが当初予算、二万五千円、かない。それで今回、四万、どうやって補正する。そういう疑問が出てくる。だから私はなおさら、そういう説明をさよるとします。わからなくなる。なおかつ、あなたは十八万六千円については、必ず執行いたします。こういう言明を、しているにもかかわらず、そういう説明をさよると、私どもは迷惑するだけなんです。さつぱりわからない。

福祉事務所長（池田亮山君）確かに御指摘のとおり、結果になるわけでございます。付記にございます印刷製本費、この記載してございますけれども、そういうことになるわけでございしますけれども、

こゝ際まず、おわび申し上げておきたいのは印刷製
本費等というふうにお考えいただければ幸いで
ございます。要するにこの節の中でそのように
予算を執行いたしまして、そうして当初の計画
通りにひもつき事業を完成しない。かように
考えているわけでございます。

それからもう一点、当初に事務の手違ひからと
申しまゐるのは、係りいわゆる仕事の手際と申し
ますか、そういったことでこの仕事をやっていきます
上に、あつちや、こゝやという節内の他、支払ひ、発
等、関係でこのうったまうな結果になつたという
ことでございます。当初に申しまゐた不手際と申し
まゐるのは要するに、そのことを申し上げたわけであ
ございます。何とも申しわけないと思ひます。陳謝

申し上げたいと思っております。

三番(中村省吾君)それで大体わかっています。けれども、そこでも一つ、まず一点としては、再度、私の方からお願いすることは、この一、二、青少年育成推進運動といえますか。これは千葉県では、館山が一カ所だと思っております。全国二十大カ所で、千葉県で指定された。そういう重要な事項として、船形が設定された。そういう重要な事項であるわけです。そのため、十八万六千円というものを、館山市に委託された。従って十八万六千円については、責任を持って、これを執行しなければならぬ義務がある。だから私たちは、こういうふうな、もうがどうように執行されておるかという、ことに深い関心を持って、おるものなんです。はからずも、その中から、五万円というものが、補正された。一てみると、十三万に少ししか使

われないのではなにかという疑問が当然起る。そこで最初質問したら課長さん答弁はそうとおりでございませうという答弁をいた。あとから訂正をまあだが、そういう答弁もありました。その次にいろいろ聞いて参りますと、どうも矛盾が出てきたというようなことで再度私が質問して確認を取るといふ形になった。はじめから一つ正直にいうもらいたい。何かその場をこまかせばいいというのでは私どもは本当に予算審議はできない。そういう予算審議なら私は一切今後応じません。もう少し真剣に予算審議というものは各課長とも取り組んでいただきたいと思います。以上です。

○八番(安西益男君)二四番議員さんの関連質問に参ります。老人ホームの関係と扶助費に参ってお伺い

たいと思います。

老人ホームの件でございますけれども老人ホームの内容
についてちょっと伺いたい。あそこに定員が何名で
何人収容されておるかという点。そうでまた
現金をひとりひとりに支給している金額等がござい
まらう。どう程度か現金を支給しているかという点
をまず最初も聞きたいと思えます。

・福祉事務所長（池田亮山君）お答え申し上げます。

老人ホームの定員でございますが、七十名でございます。
そうして館山市の老人を措置しておりますも、
現在三十八人でございます。

次う一人当りの措置費でございますが、数字でござ
いますので、私よく覚えておりません。資料を取
り寄せましてお答えいたします。

一八番(安西益男君)外部の方は何名ですか。全員で何名収容してあるか。

福祉事務所長(池田亮山君)直接私の方で関係してありませんので。はつきり数字は覚えておりませんが、大体定員いっぱい入っておるといふことを聞いております。

一八番(安西益男君)私の聞いたところでは七十名の定員というのですが、七十五名収容してあるというところを聞いておりますが、どうですか。

福祉事務所長(池田亮山君)照会いたしております。容えたいかと思ひます。御猶予願ひたいと思ひます。

一八番(安西益男君)これは全体的には定員をオーバーしてあるというふうに聞いておりますが、今

後に見通しについて人員がふえていくのではな
いかということも当然考えなければならぬと思
います。こういつた見通し等について計画なり
お考えがありまらうお伺いいたしません。こゝよう
に思います。

福祉事務所長（池田亮山君）あり老人ホームは市
経費ではございせんが、内容の経費、枕元等
は市の方では承知いたしてあります。ただ定
員が何人う施設であつて、そうして篠山市の老人が
何人措置されて、こちらから委託しておるか、承知
してございます。

議長（吉田勇治郎君）暫時休憩いたします。

午後 三時三十五分

休憩

午後四時三分

再開

・議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会談を申し
きます。

答弁を求めます。

・福祉事務所長(池田亮山君)先ほど、保留をいたしま
した御質問に対しましてお答え申し上げたいと思
います。措置費は現在一人当り一万六千二百
五十円でございます。これはいわゆる生活費
と申しますか、そういうものと事務費も含めて
おります。

それからなお定員七十名に對しまして現在入居
しておりますものが七十五名ということだそうでござ
います。

一八番(安西益男君)わかりました。直接市に關係な
いという点については、どうも残念なような気も
いたします。今後、そういった面等にも勉強願
いたい。二のうろに思っています。

伏して、市内の老人等が収容される場合におきましても
あまり関心がないのではないかと。そういった憂い、
持も起ころうとするわけでありますが、設備等につき
ましても、若干問題があるという点も聞いており
ますが、そういった点等も今後十分所長さんの方か
ら意見が出されてさうつかえなうとするならば、便所
とか、そういう面で不自由しているという点も聞いて
おりますので、意見具申できる立場にございま
す。一は、お考えいただかないと思っております。

次に先ほどの医療保護八百万見込みも、リヤなく

なつておるといふことでありますけれども非常に莫大
な金額であります。当初、見込み八百万円
も差額があるといふことは、それだけ医療を受ける
ことが少なくなつたといふことにつまみては、まことに
結構であります。若干受付け等に何かきびしい
ものがあるのではないかと。いふことも、ちよつと聞きます
うでも、もちろん企画に合つたものでなければ、当然な
りませんけれども企画に合つた申請等におきましても、
も、どうもいきにくいといふ声等も聞きますので、
そういつた点等があるならば、今後十分気を付けて
いただくべきだと思います。いかがなものですか。
福祉事務所長（池田亮山君）扶助の申請に基いた場
合に市に参りまして扶助が受けにくいといふふうな
お話だと思つていますが、こと扶助でござりますので

往々にして私たちが、この仕事にたずさわっております。一て、誤解を生ずる面が出てくるわけでございます。私たちが、福祉事務所で扶助の申請を受け付けました場合に、いろいろ資産の状況、収入等、一切をお聞きまして、そうして法的に可能なものかどうかは、判定はそこでされるわけであります。

ただいま御指摘の点には、要するに普通の人が回わりから見まわした場合に扶助を受けられる人と受けられない人と何かそこには、一ないかというお話も出てくるわけでございます。ただいま申し上げてありますように、詳細にその状態を検討してみますと、扶助適切なものであるか、ないかという判断をくだしてやるわけでございます。

ただいま御質問、御意見見のようにな、今後ともその線

にそして慎重にこの仕事に取り組んでいきたい。かように
考えます。

一八番(安西益男君)これは昨年のごことでありますけれども
ある老夫婦がふたりとも病気になるまいと、だいか、
うちの人をまもってくれないかというふうなお話があり
まーたんですが、どうしても行かないで近所の人を頼
んでよくいてもらうかというのを聞いておりますが、
でき得るならば係う方がときと場合によっては、って様子
を聞いてもらうとかいう点も今後大いに考慮願ひ
たい。このように存ずるわけでありますけれども、いず
れにしても生活保護、医療保護等を受けける人は非
常にせつばつまったという立場、人が対象になるわけで
ありますので、いっそう血が通った真心から、そうい
う人たちに対しては接していただきたい。このように願

いま一で終ります。

・三五番(田村源治郎君) ちっと収入役にお聞きなさい。歳入について市税、その他手数料等は順調にきちんとして入っているか。そう点と、国、県補助その他がきちんとしておるか。

・収入役(高木哲三君) 市税に対しては見通しはついておりますが、ほかうもまだ入っていないが、相当あります。

・三五番(田村源治郎君) 市税はあらまーきておる。このところの数字うもすができなければならぬ。

そう他、手数料もこの歳入にかかげる数字でなければ考えもいじ、あと幾日もない。この数字どおり

合わせることが、確実にできるのか。できないのか。もっと、確実な御答弁を、数字を明らかにしてもらいたい。

収入役(高木哲三君)市税につきましては全部入っておりますわけではございません。ほかう種目につきましてはまだ入っておりませんが、入っておりますまいものがございますが、出納関係までには入る見通しであります。

二五番(田村源治郎君)市税で何%入っておりますか。そう数字を明らかにしてもらいたい。それから現在滞っているのはどういふものが、どういふうに滞っているか。数字を上げてもらいたい。

収入役(高木哲三君)現在市税におきましては八四%入っております。

二五番(田村源治郎君)市税だけが八四%であれば全部入っておりますか。私は全部に対して何%入っておりますか。市税が八四%では考えもつた。

収入役(高木哲三君)ほかう種目につきましてはまだ統計

が出ておりません。うちほどお答えいたします。
 二五番(田村源治郎君)統計が出てない。おかーは答弁
 だ。金がどだけあるか。歳入が正しいものであ
 る。それで支出が組まれるものだ。何%位入って
 出るといふのが、収入役つとめだ。その数字がない
 では困る。その点について今からすぐ取り寄せて
 いただきます。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午後四時十八分 休憩

午後四時三十分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開
 きます。答弁を求めます。

。収入役（高木哲三君）三月九日現在で収入累計が八億
千二百七十八万千七百三十円になっております。
予算に対してまして一％ということになっております。
これは税金が含まれておりますので、税金の収
入といふ――ましては一月末でございますが、大体八
四％入っております。まだ入らないおもなものが、市民
センターの起債が七千万が中で一番大きなまだ入
ってこない金でございます。あとはいろいろな収入が
ございますが、これはお納関鎖までに入る見込が
でございます。

。二五番（田村源治郎君）大体わかりました。区分は時
間もかかるので、三三という答弁でしうけれども、未
収入になるような傾向はないか。市税に対する未収
入が多く、繰り越さるけれども、その点はないか。ある

か。できるかもしれないということはつきりお答えしていただくまい。

。収入役(高木哲三君)税金等につきまゝでは収納課で未収となるべく少ないように骨を折つていただくことになりまゝです。その他収入については大体予算通りについて予定でございます。

。一番(西村直次君)一つだけお尋ねしたいと思ひます。ハベージ歳入のことでございますが、繰り越一金が千七百四万円ですか。不足を生じております。このうちおもな不足源というのはどんな種類のものであるか。またこの不足源がはつきりしたものはいつ頃であるか。この点についてまずお尋ねいたします。

。財政課長(長谷川弘治君)お答えを申し上げます。はつきりした時点は、大体六月一日でございますが、

端数計算もありますので、若干日は遅れるというふう
に思っています。

減になったのも理由は市民センターの建築関係が済ん
ますために繰り越し金が一般財源の財源をもち
繰り越されるという結果になったためでございます。

一。番（西村真次君）その額は何ほどになりますか。

財政課長（長谷川弘治君）約千六百方だったと思ひますか。

一。番（西村真次君）先ほどかういふ歳出の部でどなたかの

質問の中にもかなり減額、更正ということが問題

になつておりまゝだけれども、当初予定しておつた

三千何百万から繰り越し金、これが現在千七百万も

不足を生じておるといふことは、やはり歳入の見込

みがはつきりしておらなかった。そのまま予算に計

上している。こういうことだろうと考えるわけでありま

すが、歳出の部にのみきましても、やはり減額、更正がめだす。その総額は千五百万以上に上っている。もうでござりますが、これは減額、更正の減額というものは先ほど個々の面についていろいろ御答弁がございまして、一々こもともな御答弁でございまして、いども、これは繰り越し金や穴埋めに減額されたのではないかと、いうような疑問を私どもは持たざるを得ないわけですから、三つ、二つ、一つ、いかに、もういかに考えたいかと、おりますか。お申かせ願いたいと思います。

・財政課長(長谷川広治君) 更正のおもなものは、歳入におきましては、市民センターの起債額の翌年度回れし等がおもなものでございまして、歳出等につきましては、現在まで、いろいろ御説明申し上げておりますが、

個々のもつてしまへてはいろいろあるうと思ふんです。総体的に申しますと、裁額としては大きなものはないわけでございます。――繰り越し金が更正しなければいけないので、そのために他、歳入を削つたということには私どもとしては考へておりません。一つ一つ、課目につきまゝに検討う結果、更正をいたしてございます。――一番（雨村喜次君）まあ、当然、そういう御答弁があるはずでございますけれども、先ほどもう同僚議員が何かほかにあるうではないかという質問まで出ました。私も、この予算を見ますと、何かすっきりしない。納得できないようないふ状況にあることは、間違いないわけでございます。――裁額にしても、一つ一つ、点に於てはいろいろと答弁があつたわけですから、いふと、たとえば、薬剤の散布の費用なんか、――しても、なかなか

か思うように答弁が出ない。しかも答弁にはゴミ焼却場の施設ができたために減ったんだというふうな答弁がありまーたけれども、大体ゴミ処理場がいつできたかというのをはつきりご存じないかもしれない。私は衛生関係の委員をやっておりますからよく知っておりますが、あれは四十一年の三月七日に起工式をまつておる。そうして四十一年度の予算でゴミ処理場ができないことになって、薬剤の費用を計上してゐるということが納得のいくことですか。私は予算を立て方というものと對して真剣な考えで取り組んでいただかなければいけないのではないかと、こういう気がするんです。

一つ責任を持ち、市民の福祉のためにこういう事業を今年はどうしてもやらなくてはならぬという

信念のもとにこういう手算ができて上である。

結果から見ても、これをやらないで済ませようですという仕事をせよとはじめに予算にかけるか。こういう点については私は疑問に思う。これは私ばかりでなく同僚議員全部が考えているのではないかと思われる。こういう責任がどこにあるのか。市長さんに御音見をお伺いしたいと思います。

・市長(本間譲君)非常に議員の方々は片熱心に御審議をいただきます。本当に懇縮に考えておられます。一か一かながら答弁に立つ私をほめて各課長、特に衛生の関係、或いは福祉の関係の課長は非常に勉強が足りないで皆さま方に納得のいかないままにこれを審議されるようなふうに私も考えまゝてまた更正不用願につきましても、これもまた皆さま

方のお話のやうに審議される側になれば当然幾分
 を抱くのは当然であるわけでございます。私も議会
 を迎えるにつきます。課長会議をもちまして、ます
 市会というものは市民の代表である。市会議員
 が市がどういふやうに何をやってゐるか。また課長
 がどういふやうに勉強して市の発展のためにやっ
 つかうかということを早くいへば試験されることである。
 だから諸君は勉強をして遺憾がないやうに、でも
 ういまいと。このことを課長会議のときによく話をし
 ます。市会にのぞんでゐるわけでありすが、いず
 くにまいしても、市長たる私に責任があることは
 当然であるわけでございます。すけれども、やはり課長
 ともなひはやはり市長以上にすべてを考へて
 やらなければ、市の発展というものは期し得ない

と私は考えております。結局、市長、指導、監督が悪い。三ついうことになるのは当然であります。が、私は市の職員が勉強して市民サービスをよりよくしてもらいたい。三ついう音の意味から人事課をもちまして人事課長をして指導させて、いろいろ事務の研究会、講習会もやっておるわけでございまして私は本当にそういう気持ちでいっぱいであるわけでございします。けれども、きょうの結果を見たときには、まことに不勉強を咎さんう前にさらして不可解のままに決議されるようなことでまことに私は申しわけない。また、遺憾に考えておるわけでございます。

課長人事につきましても、三月に異動がございしますから、嚴重な態度をもって市民の皆さん

ま方に二つえない。どうして課長がよりいっそう
研究して遺憾がないようにしなければ、熊山市の
発展がはかばかしいわけでございまして、私もきょう
様子を見まわして本当に皆さん方に申しわけない
気持ちでいっぱいございまして、しかも責任が極
めて大きなことを痛感しておるわけでございま
して、これから大いに人事問題につきまわしては特に
検討して今後遺憾がないようにしたいと思
うわけでございします。かり、どうぞ御了承願い
たいと思ひます。

○一番（西村真次君）市長さん、御心境、また御
決意承りまして、安心いたしております。

二、市長さん、信に立たえるのが課長さんたち
立場であらうと思ひます。どうか、その線に

たうように勉強していただきたいと思ひます。

私ども議員が考えた場合に議員が数字なんか
わからないのだから大にことはないのだ。適当に答弁
してあげばいいのだというふうに見らるる答弁は決
してされないように、二ヶ点は十分注意していただきたいと
思ひます。 予算編成につきましても各課から

出された予算は膨大なものでありそれを削り
削り最後うとうとでもやらなければならぬとい
う数字だけを集めてでき上がったのが予算案だと
思ひます。それが適当に三月末になるとこいもや

らないでよかつたんだ。あれもやらないでよかつたとい
うでは私どもはあまり予算というものを整視と
言わざるを得ない。市民にとって本当に申しわけ
ないことだと私どもも考える。どうか二ヶ点十分

留意していただきたいと思ひます。これをもちまして
質問を終ります。

・三六番(秋山大三郎君)私さわめて簡単なこととござ
いますが一ツ御質問申し上げたいんですが、二ハヤ
ージの農林水産業費の中つたとえは干害にか
かる応急対策の費用であるとか、農業構造改善
事業の補助金、或いは小規模草地の改良に關
する事業の委託であるとか、三というもやが、二
三月のいわゆる最終の年度末において三という
補正が出される。特に小規模草地改良委託料と
いうものが面積が減ったから二だけ減額になつた
三というふうな御説明があつたように伺つておるの
でありますか。私は三というふうな果、或いは同等
の補助金うからや合いから、年度末に三というも

が計上されてきたのではないか。こんなふうには予測する
のでありますけれども、少なくとも干害対策とかそ
ういうようなものは考えて見ますと、干害で騒いだ
ときから一年近くもたとうとしておる。今になつて
干害対策費が補正されたということは何か時期が
ずいぶん遅れておる。三ついうような補正をせざるを
得なくなつた立場になつたことは、お聞きになくても
わかるでおるのでございしますが、もうサ一早急にい
ゆる時宜に適切な措置を考へることができるのかと
てきばきと三ついうものが処理されていかないかと
いうことをお聞きにないわけでございします。

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) お答へ申し上げます。
ただいまうお話、本当に私も同感でございします。
すでに一年近く経過しておりますので、私ども役所

側といつた――まゝでは遅くとも九月の議会にこの補正をせよ出したいというのを考えておいたわけでございますが、たまたま弁解がまゝになります。が、国果の査定が十二月の中旬から一月の初期にかけまゝで結果的には行なわなければならない。であります。それに伴います。市、補助金の出――方、そういふこともつきまゝでは、やはり国、果の態度が決定いたしません。なかなか思うようになりません。で、时期的に私も、残念に考えておいたわけでございますが、そういう結果に相なつたというにつきまゝして御了解願いたいと考へております。

以下、二、三の点につきまゝでも、同様のことと言えるわけでございます。特に構造改善の補助金

にいたしましては、國が最終的にコンバインの購入が
決定いたしました。二月に入ってからでございます。
計画としてはございまして、けれども従つて時期的に
御指摘のような点がございまして、結果的に三、四
うふうになつた。私も一々しても、せむもつと早く
措置したかつたといふことで御了解願ひたいと思ひ
います。

ニ天番(秋山大三郎君)もう一つお聞きしておきたいんですが、
小規模草地の改良事業の委託料でございしますが、
これは面積が減つたから、減額といふことでございす
が、減つた面積は、どう位に当るのか、それを知りた
いわけですよ。

農林水産課長(伊藤幸太郎君)当初予算におきま
して私もが予定して、たうが十町歩を予定し

たわけでございます。

その十町歩を予定いたしまして、予算措置を講じておたわけでございますが、結果的に見まして、これが八町歩にとまるということでございます。

その原因につきましてもいろいろございますけれども、この草地改良事業は御承知のとおり、市の直営で市の土地に行なうものでございせんので、あくまでも山林、または畜産の農家の方たちが自分の持ち山等を利用して行なう事業でございますので、私ももう予定通りに結果的にいかなかつたというわけでございます。

○二大番(秋山六三郎君)もう一点お聞きいたしますが、二九ページの下書きに、急対策事業補助金、二八ページの使用料及び賃借料、四十五万二千円、という

ようなものも千害対策について関連があるように思
うのでございしますが、二う千害対策の経費を計算
してみますと両方合わせまして二う予算に新しく
追加補正を一つある額が四百五十七万二千円になるよ
うに思っておりますが、歳入の方を見まして果から
二うに対して入ってくる金が百四万一千円になるのでは
ないか。三うどうふうに考えるわけでございしますが果
から二うだけかこないものに対して、市は二うだけ
のもうを出すのだという事ですと農家といたしま
しては若し千害に耐えてという事であります
ので、二う支払いがもつと迅速に行なわれるというこ
とが農家を育てていくという意味から非常に
大事だ。二う思うに思いうわけでありまして、二う点に
ついて御所見を伺いまして、私、質問を終りた

いと思つてわけでございますが、

・農林水産課長(伊藤幸太郎君) お答え申し上げます。
 先ほども申し上げましたとおり、当時の千長に對しま
 して、農家の方たちが非常に御苦勞なかつた。
 つきましては、市といった――ましては補助金等を差
 上げまして、多少でも農家の皆さん方が御負担
 を軽くしてあげたいというところで、応急対策事業
 の補助金要綱というふうなものを私も作りま
 して、その要綱に基きまして、作業を進めておたわ
 けでございます。――先ほども申し上げましたと
 おり、国や県におきまして、相当の補助金制度を
 設けまして、これを交付するということに決定せられ
 ましたので、市独自の考え方がなくなり、国・県
 の方針にうつつて、市もそれに合わせまして、対策補助

事業をしていきたいというのを考えたわけでございます。
その結果、関係が決定いたしません。関係で
一カ年並くの時日を要したという事に相なつたわけで
ございます。大へん私といたしましても遺憾に考
へておるわけでございます。追加予算の決定次第、
一日も早くこの線に沿ひまして手続きを完了して
農家の皆さま方にお届けいたしたい。このように考
えておるわけでございます。

議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございせんか。
なしと認めます。

おはかりいたします。本案を討論省略採択する
に御異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決されました。

日程第二、議案第十二号乃至議案第十七号について一振質疑を求めます。

議長(吉田勇治郎君) 御質疑ございませんか。――
なしと認めます。

おはかりいたします。本案を討論省略採決すること、御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

おはかりいたします。本案を原案通り可決するに

御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。 ようて本案は原案通り可決さいます。

本日、会議はこゝにて散会といたします。

次会は明三月十三日午前十時開会といたします。
その議事は昭和四十三年度一般会計並びに特別会計予算案、内容説明といたします。

午後 五時一分 散会

本日、会議に付いた事件

一、議事日程に同じ

出席議員

吉田勇治郎

嶋田石蔵

伊賀多朗

藤田益治

磯辺博

白熊盛太郎

黒川正

三幣勇

西村真次

小柴孝

山田教平

石井正

五十嵐昇

江田徳太郎

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

関武夫

小澤恵太郎

田中祿郎

田村源治郎

秋山大三郎

安沢徳順

望月照正

山口康

欠席議員

石井輝久

菊井敏博

遠山ヨネ子

飯田義男

鈴木市蔵

出席説明者

一 第一日目について

出席事務局職員

一 第一日目について

